第3回文京区アカデミー推進協議会　議事録

日　時	平成27年7月22日（水）　18:30～20:30		
会　場	文京シビックセンター24階　文京区議会　第一委員会室		
委　員	会　長	水越　伸	（東京大学教授）
	副会長	久松　佳彰	（東洋大学教授）
	委　員	青木　和浩	（順天堂大学准教授）
	委　員	田中　雅文	（日本女子大学教授）
	委　員	金輪　精梧	（文京区町会連合会　副会長）
	委　員	田中　ひとみ	（文京区女性団体連絡会　広報部長）
	委　員	上田　武司	（文京区商店街連合会　副会長）
	委　員	鈴木　秀昭	（東京商工会議所文京支部　事務局長）
	委　員	天野　亨	（文京区心身障害者福祉団体連合会　理事）
	委　員	平井　宥慶	（文京区民生委員・児童委員協議会　会長）
	委　員	三谷　規子	（文京区青少年委員会）
	委　員	春田　孝二郎	（文京区高齢者クラブ連合会　副会長）
	委　員	鴻瀬　太郎	（小学校PTA連合会　会長）
	委　員	三浦　徹	（中学校PTA連合会　理事）
	委　員	柳澤　愈	（文京アカデミア学習推進関係委員会、文京区アカデミア講座企画委員会　委員長）
	委　員	塩見　美奈子	（文京区生涯学習サークル連絡会　会長）
	委　員	井上　充代	（文京区スポーツ推進委員会　副会長）
	委　員	田辺　武之	（文京区体育協会　副理事長）
	委　員	髙澤　芳郎	（シエナ・ウインド・オーケストラ　事務局長）
	委　員	牧野　恒良	（公益社団法人宝生会　事務局長）
	委　員	白井　圭子	（文京区観光協会　副会長）
	委　員	荒木　時雄	（公益財団法人東京観光財団　常任理事）
	委　員	佃　吉一	（公益財団法人アジア学生文化協会　常任理事）
	委　員	森岡　隆	（文京区国際交流フェスタ実行委員会　委員長）
	委　員	小林　博	（区民公募委員）
	委　員	増田　純	（区民公募委員）
	委　員	金坂　吉雅	（区民公募委員）
	委　員	黒木　美芳	（区民公募委員）
	委　員	黒田　千恵子	（区民公募委員）
	委　員	松井　良泰	（公益財団法人文京アカデミー　事務局長）
	委　員	小野澤　勝美	（アカデミー推進部長）
欠　席	委　員	野口　洋平	（杏林大学准教授）
事務局	山﨑　克己	（アカデミー推進部アカデミー推進課長）	
	熱田　直道	（アカデミー推進部オリンピック・パラリンピック推進担当課長、アカデミー推進部観光・国際担当課長）	
	細矢　剛史	（アカデミー推進部スポーツ振興課長）	

福田　昭正　（アカデミー推進部アカデミー推進係長）
山本　恵美子（アカデミー推進部オリンピック・パラリンピック調整担当）
支援事業者　株式会社創建　大谷・氏原

資　料　　資料第1号　平成26年度アカデミー推進計画進行管理表（案）
資料第2号　各分野体系案
資料第3号　横断的施策について

議　事

1. 開　会

水越会長より、開会のご挨拶をいただいた。

水越会長　参集いただき、お礼申し上げる。本日は2つの議題がある。ひとつは昨年度の事業に関する評価であり、もうひとつは各分野の分科会の報告を受け、協議することとなる。よろしくお願いしたい。

2. 議題

（1）平成26年度の進捗状況の評価の報告

事務局より、資料第1号に基づき、平成26年度の事業評価について報告を行った。

（2）各分野体系案ならびに横断的施策

事務局より、資料第2号・第3号に基づき、各分野の体系案ならびに横断的施策について説明を行った。

水越会長　まずは生涯学習分野と文化芸術分野について意見をいただきたい。

黒田委員　文化芸術分野は大変よい内容になっていると思うが、区民の立場でいうと、文化芸術に関する情報をどこで得ればよいのか分からない。生涯学習や図書館、国際交流や観光も同様に思っている。観光に話が及んでしまうが、観光も案内や情報発信が不十分だと思っているので、情報を集約する場所をつくることについて考えていただきたいと思っている。

水越会長　この場で回答できることは回答するが、今後の分科会で議論すべき事もあると思う。黒田委員の意見は、今後の分科会で取り上げていただきたい。

黒木委員　5つの分野のベースに文化芸術があり、それがあって文化レベルが高まり、学習が進むのだと理解している。そうすると、文化を守るということは既に取り組んできているので、創造に力を入れてはどうか。文化の発信地になればよいと思っている。文京区らしいレベルの高い文化を創りだしていったら魅力的であり、観光にもつながると思う。

柳澤委員　分科会で述べた意見はすべて反映されていて、ありがたい。見解を述べると、生涯学習分野でコミュニティづくりについて言及がされているが、コミュニティが生涯学習の最終目標だと思う。この言葉が入ったことが大変よかったと思っている。文化芸術についても、まちおこしにつながる目標があり、この目標も分野を横断するものとしてとらえてもよいと思う。生涯学習分野では

区民が企画して区民が先生を勤める区民プロデュース講座という事業があるが、他の区ではあまり例がないと思う。文化芸術分野では地域文化インタープリターもそうだ。これら活動も、先ほどスポーツ分野で話のあった文京ブランドだと思っている。

水越会長　具体的なブランド形成につながる、ありがたい意見だと思う。

田中委員　黒木委員・柳澤委員の意見には同感するところだ。横断的施策にある「文京区ならではの魅力・区のイメージづくり」が挙げられていて、情報発信やPRに関する意見が関連づけられているが、それ以前に文京区の地域文化の創造なのではないか。文京区といえば何か。訪れたい、住みたいと思うような文京区をつくっていくということだろう。横断的施策のなかに、そのような趣旨を位置づけてもらえるとよいと思う。

水越会長　図書館の話があったが、図書館は重要だと思う。質問になるが、文京区には区立の博物館や資料館はあるか。

小野澤委員　法的にいうと博物館類似施設となるが、ふるさと歴史館と森鷗外記念館は博物館とほぼ同等の施設と思ってもらってよい。

水越会長　図書館については「図書館など」と記載し、ふるさと歴史館や森鷗外記念館も含めるようにした方がよいのではないか。

小野澤委員　アカデミー構想を策定する際、現在のアカデミー推進部が検討されたのだが、図書館やふるさと歴史館、森鷗外記念館を所轄にしようという考え方があった。ただ、図書館については、当時は教育委員会所轄の方がふさわしいという意見が大勢であったので、アカデミー推進計画の範疇ではなかった。とはいえ、図書館は地域学習の場であり、生涯学習の拠点施設という位置づけを所轄にかかわらず明記しようと考え、前回の計画からひきつづき図書館についても施策の対象としている。

水越会長　承知した。次にスポーツ、国際交流、観光について意見をいただきたい。

小林委員　国際交流分野について、構成としては「交流」が「理解」の一部になっているが、分野名の単語が目標で用いられないのは疑問だ。交流と理解は異なるものだと思うのですが、その点について再度説明いただきたい。

久松副会長　おっしゃるとおり、他の分野は分野名の単語は目標に使われている。国際交流でも「交流」という言葉を用いることはできる。ただ、分科会では2つの議論をしてきた。1つ目は、「交流」という言葉はすこし硬いのではないかということだ。何らかの活動をして国際理解につながれば、それはある種交流だと位置づけていくような広い考え方に立つために「交流」という言葉を目標から外してもよいのではないかという話をしていた。2つ目は、基本的な方向として「交流」という言葉が入っており、実際に取り組む内容は変わっていないので、言葉づかいは問題ないだろうという話だった。様々な交流のあり方を試したいという思いもあり、あえて「交流」という言葉を使わなかったという経緯もある。

三浦委員　国際交流は言葉が通じないと難しく、それがハードルを上げていると思う。交流の機会として、英語ができなくても交流ができる場を設けてはどうか。交流するうちに英語の必要性を感じ、後から学ぶのでもよいのではないか。日

本語だけで交流できる場をつくり、ハードルを下げていくような考え方をとっていただけるとよいのではないか。

田中委員　交流を通して理解が進むということはあると思うが、理解が進むとさらに交流が活発になることもあるので、交流と理解は相乗効果をもって発展していくものだと思う。そうすると、文京区が元来有していた地域文化が、外国人との交流のなかで新しい文化が生まれてくることもあるだろう。横断的施策の話につながるが、文京区ならではの魅力や区のイメージにつながるので、そのような目的が国際交流分野に入ってくるのもおもしろいのではないか。

黒木委員　「交流」という言葉は、難しいという印象を持たせてしまう。飲み会に出かけていくような軽い印象を持たせることができれば、門戸は広がると思う。語学は必要なく、各国の食べ物を持ち寄ってパーティをするような場があればよいと思う。そのなかで言葉を学ぶ必要があれば、学んでいくとよいと思う。色々とアイデアは出てくると思うが、アカデミー推進計画のなかで、この「交流」という言葉をかみ砕いて表現できるとよいと思う。スポーツについても、よい成績を残さないといけないと思いがちだが、区内の坂を上るような文京区ならではのスポーツをつくり、門戸を広げながら活発にしていくことが考えられるとよいと思う。

天野委員　スポーツ分野で、障害者スポーツの普及促進と書かれているが、どのようなイメージを持っているのか。障害者スポーツは、みんながやっているから自分もやりたいという思いから始まっているものが多いと思う。ルールややり方を変更してはいるが、似せようと思ってやっていることなので、健常者もいっしょに楽しむことを通じて普及促進ができればよいと考えている。分科会ではどのように考えていたのか教えてもらいたい。

青木委員　いまおっしゃったとおりの議論をしてきた。障害者を特別視するのではなく、子どもも大人も高齢者も障害者もみんなができるというイメージを持っていた。先ほど坂道を上るという意見があったが、バス停で待ち時間にストレッチができるなど、スポーツのハードルを下げていき、運動が苦手な人も障害者でも運動ができるのが文京区なのだという考え方で議論が進んできた。

水越会長　観光分野について、商業者との関係が大変重要だと思っている。他も同様に関わりがあるとは思うが、持続的に事業を進めていくには、地域の商店街や生業をしている方との連携は重要だと思っていて、それが目標として示されていることはよいと思う。もうひとつ、スポーツ分野について新しいスポーツをつくるという考え方が興味深いのだが、具体的にはどのようなイメージなのか。文京区はラジオ体操の発祥の地だというが、関係があるのか。

青木委員　ラジオ体操の話をしていた。現在、ラジオ体操の学校対抗戦など、様々なイベントを実施しているようなので、それを特化していくという意見があった。東京ドームで、みんなでラジオ体操をするなど。あと都市対抗野球の応援も意見として出されていた。メディアに取り上げられたり、文京区民がおもしろがったり、すこし遊び心があるような種目にすると新しい層が参加できるのではないかという話をしていた。

黒木委員　昔のラジオ体操をやると高齢者は喜ぶし、マスコミも面白がるかもしれない。

小野澤委員　民間事業者との連携については、去年から取組をはじめている。ホテルや旅館などの事業者、商店の方を含め、様々な人が意見を交わす会議を行っている。計画策定ではなく、課題を出し合い、区でできること、事業者同士でできることを仕分けすることを目的としている。今年度、観光プレミアム旅行券を配布するのだが、ある旅行サイトにお願いしている。経済的な専門家を交えているわけではないが、その会議のなかで気運を盛り上げ、活動につなげるという取組は始めている。

水越会長　それでは最後の横断的施策について協議したい。まだ柱として絞り込めておらず、各分科会での意見の中から共通しそうな言葉を事務局でまとめている段階だ。今後精査していくことになるが、意見をいただきたい。

小野澤委員　各分野よりも前に提示する場合と、共通するものを分野のあとでまとめる場合があると思うが、個人的には最後に位置づけた方が分かりやすいのではないかと思っている。

久松副会長　5つの分野ごとの施策体系があり、それに共通する基本理念と4つの目標がある。自分としては、横断的施策というものは、4つの基本目標を具体的に事業として落とし込んでいくときの方向性のようなものととらえている。現行計画の反省点は、3つの基本目標があったにもかかわらず、このことを議論したことがないことだと思う。一方、新しい計画では、4つの基本目標があり、最後の新たな価値の創造に到達できるということが会議を通じて共有されつつあると思っている。だから、横断的施策を考えるときには、4つの基本目標を各分野に落とし込むときのある種の強い意志のようなものとして機能すると考えればよいのではないか。そうすると、いま示されているものを絞り込むというよりも、4つの基本目標と分野別目標を横断的施策でうまくつなげるという考え方が望ましいのではないか。そうすることで評価に際しても、分野ごとの事業と基本的目標とのつながりが見えやすくなり、評価しやすくなると思う。

水越会長　非常に合理的な意見だと思う。確認だが、4つの基本目標とは何か。

事務局　基本理念と分野別目標とでは次元が異なるため、そのあいだに共通する目標を設定した。ただ、案の段階なので、ぜひ意見をいただきたい。

水越会長　基本理念は変更しないと認識しているが、基本目標はある程度修正が可能だ。分科会での議論が充実していたおかげで、分野別の目標や方向性はレベルが高い。それに比べると基本目標はまだ漠然としているので、見直した方がよいのではないか。4つの柱をもうすこししっかりしたものにしなければいけないと思う。

田中委員　久松委員の意見で気づいたのだが、基本目標と横断的施策には密接な関係があるようだ。基本目標は言葉で飾られているが、まず区民の活動のための環境をつくろうとする項目がある。その上で、項目にもある、人が育っていき、その人たちがネットワークを組んで、つながりやコミュニティが生まれる。そして、それが基盤となって新しい価値ができるというストーリーを項目のあいだから読み取ることができる。それを念頭に置いて横断的施策をみると、基本目標との関係が見えてくる。オリンピック・パラリンピックやまちあるき、

図書館に関する横断的施策は、個別の問題なので位置づけを考えないといけないが、いずれも環境づくり、人づくり、コミュニティ形成、価値創造に該当するので、4つの基本目標をもとに具体的な横断的施策を整理するとよいのではないか。

水越会長　すばらしい。いまの意見では、4つの基本的目標を、具体的に位置づけるものとして横断的施策があるという考え方です。久松委員の意見にもとづいているわけですが、横断的施策を減らすのではなく、意味づけられるという意見だと理解した。

三浦委員　豊かな暮らしを楽しむ人も、充実した時間をつくるにしても、文京区としてどうするのかという話だと思うので、やはり文京ブランドとは何かということが大事になってくるのだと思う。逆に、文京ブランドを確立することによって、人づくりも環境づくりもできるのだと思う。今後5年間で文京ブランドができたかどうか、それが何かということで評価することになるのではないかと思う。

水越会長　文京ブランドは、田中委員の分類では価値創造に該当すると思うが、意見を聞きながら、4つの基本目標は相互に循環する関係なのだろうと思った。かなり具体的なイメージが沸く意見をいただいたので、事務局の方でまとめてもらいたい。ただ、今回の意見を踏まえると「横断的」という言葉が適切なのかどうか。基本目標に対する補足として、分かりやすくまとめていく方がよいと思うので、検討いただきたい。

以上